

平成 25 年度大学職員情報化研究講習会～応用コース～
第 1 分科会「主体的学びを促進する ICT を活用した学修支援環境の考察」
第 1 グループ討議 議事録

■ 参加者自己紹介

まずは自己紹介と LMS、ポートフォリオについて所感を述べて頂く（詳細は各自事前レポート参照）

■ 討議テーマ

LMS（学修支援システム）や学修ポートフォリオの目的と必要性

- ・ 教材、レポートの提出及び共有機能は必要であろう
- ・ 事例紹介より、ポートフォリオには哲学が必要であることがわかった
- ・ ポートフォリオには教育方針が必要である
- ・ 各大学で目的が異なるため事実上標準が存在せず各大学独自のシステムを構築するしかない
→ 創価大学のレポート「学生生活を記憶する電子ポートフォリオシステムの設計」より
- ・ LMS、ポートフォリオへの期待と必要とする機能はこの 10 年で変わった（LMS の立ち位置も変化）
- ・ ポートフォリオには自らの「振り返り」と教師の「振り返り」もできることが必要
- ・ 成果物を入れるだけであればファイリングと変わらない
- ・ ポートフォリオ機能は積み重ねの授業に向いているのではないか（事例より、理工系の授業向き）
- ・ 生涯学習の時代を考えると大学だけでなく卒業後も活かせるポートフォリオが必要
- ・ 教職課程ポートフォリオが導入のきっかけになる可能性がある
- ・ 振り返りよりも「気づき」、お互いに「見える化」
- ・ ポートフォリオは大学のビジョン、ミッションを達成する為のシステムである

導入や運用の課題や問題点

- ・ 「ポートフォリオ」という言葉の範囲が広いこと
- ・ e ラーニングのシステムリスクを含め、システムの運用は誰が行うのが重要
- ・ LMS とポートフォリオ機能の繋がり（システム連携）
- ・ 導入目的にあった機能調整（パッケージのシステムでは機能調整が難しい）
- ・ 情報系の教員が少ないため LMS に対する理解度が低い
- ・ 今までの紙媒体をシステム化するメリットがあれば、ポートフォリオ導入の要望が高まるのでは
- ・ 手書きであることがシステム化のネック（デジタルペーパーが解決？）
- ・ 教育改善にはプロセスの可視化し共有できる仕組みが必要 → 「見える化」
- ・ ポートフォリオの初めての管理者は母親である

■ 結論（まとめ）

1. 目的と必要性

各大学のミッションおよび教育理念の下、LMS により授業マネジメントの効率化を図るとともに、自立的な学修を促進するために、学修ポートフォリオとしてシステム化することが必要である。学修ポートフォリオの役割として、学修・評価を促進させるためのツールであり、学修成果を引証づけるためのエビデンスであることが挙げられる。

2. 効果的な活用

学修到達目標を設定し、授業等に即した評価基準を作り、ゴールを設定する。その評価活動として自己評価、相互評価（他の学習者）、教員評価を行い、評価と気づきを繰り返すことにより、「自ら反省し、振り返る」ことができる。学修到達目標と実績の差や他者との評価の差（相違）を「見える化」する為

に学修ポートフォリオが必要であり、学生の自己管理能力を育成することにもつながるとの結論に至った。また、「ポートフォリオの初めての管理者は母親である」ことも付言された。

3. 導入や運用の課題や問題点について

普及促進させるためには、導入および活用する目的と必要性を明確にし、学内コンセンサスを得ることが重要課題であることはいうまでもなく、その他、キーパーソン・技術者・財源の体制を整えることが最低限のスタートラインであると衆議一決した。

以上